

## 第2次琴浦町観光ビジョンの策定について

商工観光課

### 1 計画の期間

令和2年度～令和6年度(5年間)

### 2 委員構成(敬称略)

商工会、観光協会、(株)ことうら、JA鳥取中央、赤碕町漁協、大山乳業、中部旅行社、鳴り石の浜プロジェクト、県観光戦略課、県観光連盟、中部観光推進機構、山陰インバウンド機構、大山山麓・日野川流域観光推進協議会、JTB、琴浦町(山口副町長、深谷参与)

観光戦略推進会議は、策定後の推進についても携わっていただく。

### 3 計画の概要

#### (1) 基本理念

”旬”で魅せる自然の恵みが豊かなまち

～四季折々を楽しめる観光まちづくりを目指して～

「食・自然・歴史・文化」の観光資源をさらに磨きあげ、四季を通じた“旬”の観光まちづくりを推進します。

#### (2) 基本方針

**「稼ぐ観光で町の産業全体の底上げを図る!!」**

観光客を地域に呼び込み、一人ひとりの観光消費を拡大させ、地域全体に循環させる仕組みを構築することで、琴浦町経済全体の活性化に結びつける。

#### (3) 基本施策

基本施策	展開施策
道の駅を“核”として町内周遊を促進	・道の駅の機能強化 ・町内周遊の促進
まちのリブランディングにより情報発信を強化	・リブランディングによるブランド創出 ・観光協会の強化 ・広域観光、広域連携の推進 ・インバウンド対策
農畜水産物や地域資源を活用した観光商品を開発	・グルメを活かしたメニューづくり ・自然・歴史を活かしたメニューづくり ・体験型観光、土産物の開発

### 4 パブリックコメント実施結果

・琴浦町観光戦略推進会議(2月27日開催)でビジョン(案)が完成し、パブリックコメントを実施。

・意見募集期間 3月13日(金)～25日(水)

・意見提出状況 1件(道の駅での情報発信強化について)

・応募意見は、既に盛り込まれた意見であったため、原案のとおり策定

# 第 2 次 琴 浦 町 観 光 ビ ジ ョ ン

令和 2 年度 ( 2020 年度 ) ~ 令和 6 年度 ( 2024 年度 )

---

令和 2 年 4 月  
琴 浦 町

## 第2次琴浦町観光ビジョン策定にあたって

### 1. 計画策定の背景・趣旨

琴浦町では、平成25年2月に琴浦町観光ビジョン(以下、「第1次ビジョン」という。)、平成27年10月には総合戦略「琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、5年後の観光客数を92万7千人、鳥取中部圏域観光客数を260万人の数値目標を掲げ、目標の実現に取り組んできました。

今までの琴浦町の地域社会を取り巻く情勢として、平成23年2月町内に山陰道(自動車専用道路)が開通したことから、国道沿いの飲食店等を経営する地元有志がストロー現象を懸念しNPO法人 琴浦グルメストリートプロジェクトを立ち上げました。当時はB級グルメが注目された時期であり、地元の魚を活用した「あご(飛魚)カツカレー」の開発や、町内飲食店を巡るスタンプラリーなど定期的なイベントにより「食」による活性化を図ってきました。また、地元では当たり前前の風景であった海岸を、全国的にも珍しい丸石ばかりの海岸として地元住民が再注目、「鳴り石の浜」と称してブラッシュアップし、修学旅行の生徒や外国人も立ち寄るまでの観光地となりました。

道路環境の変化をきっかけとして上記のような活動が見られる中、町においても平成25年2月に「食のるつぼ琴浦」を掲げ、第1次ビジョンを策定、「食」を中心とした観光振興の充実を図り、観光客入込数も平成26年(71万4千人)までは順調に増加していたものの、平成28年鳥取中部地震の影響、新たなグルメ・着地型観光メニュー等の観光商品の創出が停滞したため、ここ数年(平成30年67万6千人)は減少傾向となっています。

しかし、何より琴浦町の最大の特色は「食」にあります。今回、策定する第2次琴浦町観光ビジョン(以下、「第2次ビジョン」という。)においても、第1次ビジョン策定のねらい「食」のキーワードはそのままに、さらに「食」を中心とした観光消費の拡大を目指し、地域経済を循環させる必要があります。近年、町内3施設(光の鰻絵、神崎神社、塩谷定好写真記念館)の「ミシュラン・グリーンガイド山陰 Web 版」への掲載、山陰道沿い道の駅「琴の浦」観光案内所の開設や新たなインターチェンジの開通、ご当地サーモン(とっとり琴浦グランサーモン)の誕生、新たな国登録有形文化財に登録された古民家の民泊施設の整備など新たな展開を見せており、「食」に関連した観光商品の開発や町内にある飲食店、農畜水産物の販売所への誘導など外貨獲得に向けて観光戦略を練り直す必要があります。また、一向平キャンプ場においては、令和2年度より新たな指定管理者を指定し民間の活力を生かした大山隠岐国立公園内の雄大な自然の中で行うキャンプなど体験型観光を売り出す施設としてリニューアルします。

こうした状況を踏まえ、琴浦町の玄関口に位置する道の駅「琴の浦」のゲートウェイ機能を十分に発揮させるため、観光案内所の情報発信の強化のほか2つの道の駅の役割分担や統一的なマネジメントで道の駅の活性化を図り観光客を呼び込む必要があります。

### 2. 第2次ビジョンの取組期間 令和2年度～令和6年度(5年間)

第1次ビジョンの取組期間を10年間としていましたが、近年、観光客の多様なニーズやインバウンド市場が急速に変化していることを鑑みて5年間に設定します。

### 3. 第2次ビジョンの管理・推進体制

第2次ビジョンの策定にあたっては、観光関連事業者、団体、行政等で組織する「琴浦町観光戦略推進会議」において戦略的で効果的な観光振興の施策の検討を行いました。

今後、第2次ビジョンに示した方針に基づく取組みの推進にあたり、「琴浦町観光戦略推進会議」において計画及び取組み状況を適切に管理します。各取組みについては、「P D C Aサイクル（計画 実行 確認 改善）」を用いて、効率的かつ効果的に、着実な取組みの進行管理を図ります。また、取組みの進捗状況や観光を取り巻く状況の変化に応じて、適宜、計画等の見直しを行いながら、実態に即した取組みを進めていきます。

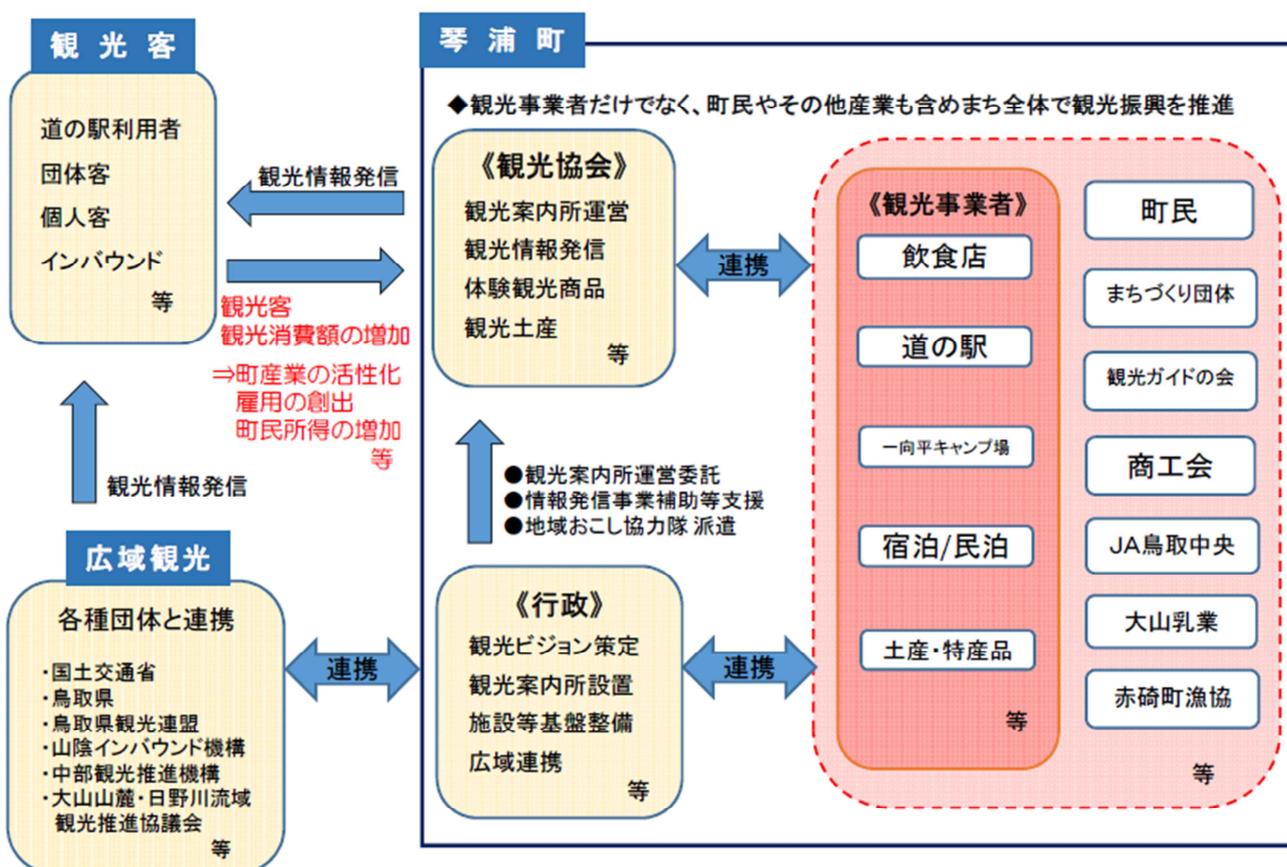
#### 【委員構成】

琴浦町商工会、琴浦町観光協会、（株）ことうら、J A鳥取中央、赤碕町漁協、大山乳業、（株）中部旅行社、鳴り石の浜プロジェクト、鳥取県観光戦略課、（公社）鳥取県観光連盟、（一社）中部観光推進機構、（一社）山陰インバウンド機構、大山山麓・日野川流域観光推進協議会、（株）J T B、琴浦町

#### 【外部専門家の招聘】

体験型観光商品の開発など観光に関する専門的な知識・技術が必要な場合は、外部専門家の指導・助言を受けながら実施します。

### ■観光ビジョン推進体制イメージ



## 基本理念

# ”旬”で魅せる自然の恵みが豊かなまち

～四季折々を楽しめる観光まちづくりを目指して～

琴浦町は、先人から受け継がれた文化や歴史と、大山山系から日本海へつながる自然の恵みを生かし、農林水産業をはじめとする産業の振興と美しい景観とまちなみに囲まれた豊かな暮らしを創造しています。

自然豊かな琴浦町は、食文化が魅力的で、旬の野菜、フルーツ、乳製品、魚介類、ブランド牛、あごカツカレー、牛骨ラーメン、とっとり琴浦グランサーモンなどバラエティに富んだ食が楽しめ、四季折々の旬の味覚に恵まれたまちです。また、たくさんの観光スポットが存在し、大地を育む「大山滝」をはじめ、長寿の大木「伯耆の大シイ」、「船上山」など長い年月をかけて育まれた神秘的な自然が溢れ、春は桜、夏はキャンプや海水浴、秋は紅葉や登山、冬は真っ白に染まる雪景色など四季折々の豊かな表情を魅せます。

このような「食・自然・歴史・文化」の観光資源をさらに磨きあげ、四季を通じた“旬”の観光まちづくりを推進します。

## 基本方針

# 稼ぐ観光で町産業全体の底上げを図る！！

### (1) ”稼ぐ観光”により町産業全体を活性化

観光振興の推進においては交流人口の拡大も必要としますが、本格的な人口減少社会の到来に伴い大幅な拡大は困難な状況です。そのため、今後は観光客数という量的目標だけではなく、滞在時間や域内消費額といった質を高めることが重要であると考えられます。したがって、観光客の滞在時間の延長を図り、域内での消費活動を高めることによる経済的な波及効果を増大させること目指します。特に、道の駅「琴の浦」の立ち寄り客を地域に取り込む必要があります。

### (2) ”食”を観光資源としたフードツーリズムの推進

琴浦町は、秀峰大山から日本海に繋がる肥沃な大地で発展し、豊かな自然を活かして、水稲、酪農・畜産、ミニトマト・ブロッコリー等の野菜、梨・ぶどう等の果樹、漁業等を多様に営む食のまちです。地域で生産される豊富で高品質な農畜水産物が集積されることから、琴浦町全体がまちの台所として、四季折々の新鮮な食を楽しめることがまちの最大の観光資源です。多くの観光客に町内周遊をしてもらい、琴浦町ならではの旬の食・食文化や農畜水産物、食の魅力をつたえ楽しんでもらう観光まちづくりを推進し、農畜産業、漁業、飲食業など地域産業と連携し、町全体の産業振興を図ります。

### (3) 中国地方及び近畿圏をメインターゲットとした情報発信

効果的な観光施策を実施していくためには、琴浦町が観光市場でどのように位置付けられているかを整理・分析し、戦略的にターゲットを絞った施策の展開が必要です。

鳥取県に関するイメージ調査（H30）及び鳥取県観光客入込動態調査（H30）によると、鳥取県に関する観光の現状は以下のとおりまとめられ、この傾向は琴浦町においても同様であると考えられます。

・鳥取県の観光地等の認知率は、「鳥取砂丘」が90%以上と突出しており、特に首都圏、

中京九州圏では、「鳥取砂丘」を除く認知度が低く、訪問意向も同様に低い。

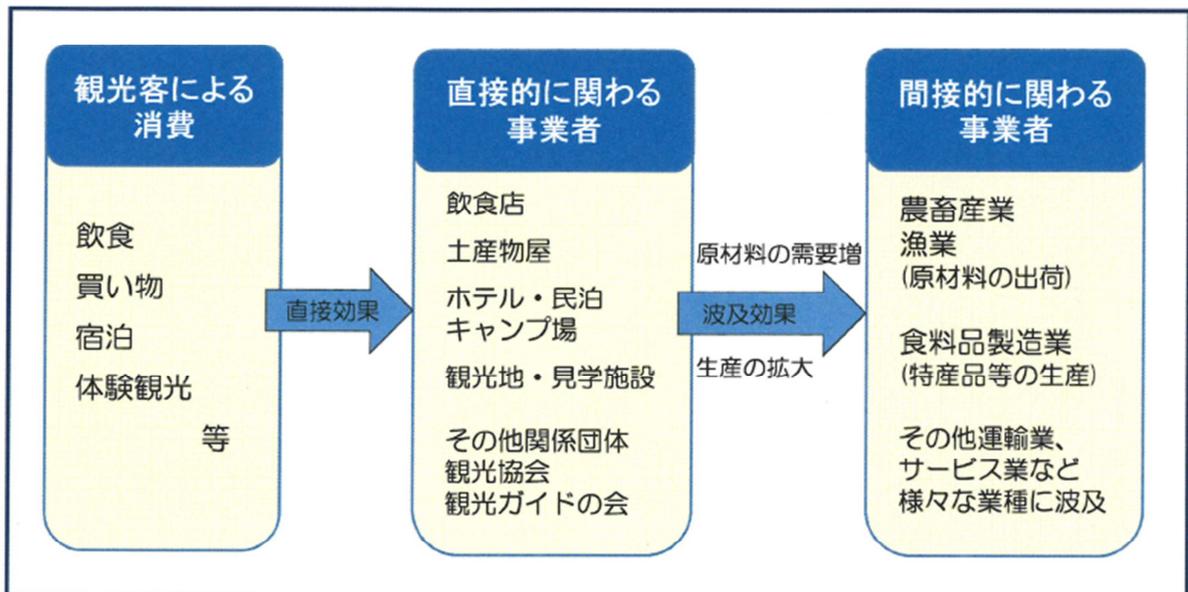
- ・発地別の観光入込客数は、県内観光客が最大の37%で、次いで近畿・中国地方の順となっている。県外観光客では、近畿・中国地方が約8割を占める。
- ・利用交通機関別の観光入込客数では、77%が自家用車の利用

このことから、町の目指すターゲティングは、中国地方及び近畿圏の観光客とし、多くの観光客が利用する道の駅において、偶然立ち寄った観光客へ町の魅力を効果的に伝え、町内へ誘導することが重要な取組みとなります。また、ターゲットについては、現在取り組んでいるAI Beaconシステム（観光客の来町状況をデータで収集・分析できるシステム）を活用した人流の分析により適宜見直していきます。

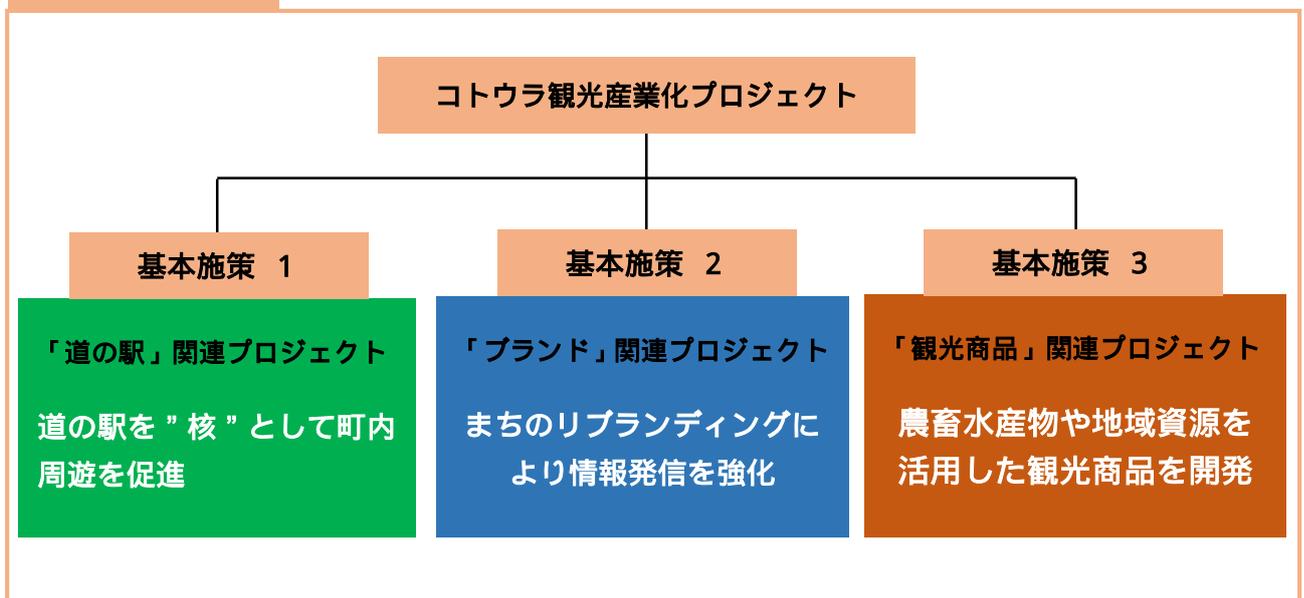
### ■観光振興による経済効果イメージ

観光客の増加 ⇒ 観光消費額の増加

- ・飲食店、特産品・土産物屋、宿泊施設など観光に直接関わる事業者の収入の増加
- ・食材など原材料の需要の増加⇒農畜産業、漁業、食料品製造業などに波及効果
- ・町民の所得増加、雇用の創出などに経済効果



### 基本施策



「道の駅」関連プロジェクト

道の駅を「核」として町内周遊を促進



道の駅「琴の浦」地域外から活力を呼ぶゲートウェイ機能の強化

まちの玄関口 道の駅「琴の浦」を観光情報発信拠点とした町内への誘導・周遊滞在をよる交流人口の拡大など地域経済の活性化を目指します。

現状と課題【道の駅活用】

琴浦町観光客入込数は、平成 26 年の 71 万 4 千人をピークに、現在 67 万 6 千人と減少傾向です。道の駅の観光客入込数が全体の 86% を占めており、道の駅「琴の浦」に立ち寄ってそのまま山陰道に戻るといった通過型観光になっている。  
道の駅から町内観光地へ誘導し、観光客の消費拡大や滞在時間の延伸に取り組む必要がある。

「道の駅」関連プロジェクトの取り組み

- 道の駅「琴の浦」はインターチェンジ化により、琴浦町の観光情報発信拠点としての重要性がさらに高まっているため、観光案内所において町内周遊の情報発信の強化に取り組みます。
- 町内への誘導・周遊滞在の促進による交流人口の拡大や地元特産品の6次産業化など地産地消の推進による地域経済の活性化を図ります。
- 道の駅の新たな経営スタイルを確立し、収益力と地域貢献力を高めながら、地域課題を解決する取り組みを積極的に行う施設として、2つの道の駅の連携、機能強化を推進します。

「道の駅」関連プロジェクトの行動計画

展開施策	行動計画	短期	中期	長期
道の駅の機能強化	道の駅の統一的なマネジメントの確立 「琴の浦」と「ポート赤碕」の連携機能強化 観光案内所にデジタルサイネージ等の導入 観光案内所に地域おこし協力隊の配置			
道の駅 「琴の浦」	「物産館ことうら」のリニューアル 旬の琴浦グルメイベントの開催 日本海&大山 写真スポットの環境整備			
道の駅 「ポート赤碕」	「ポート赤碕」のリニューアル サイクリストの受入環境整備 観光案内看板等の整備			
町内周遊へ向けた取り組み	観光客動態調査分析(AI Beacon システムの運用) 琴の浦 IC を起点とした観光周遊ルートの創出 広域観光周遊ルートの創出 町内周遊ツール「まちなびカード」の制作			

## 基本施策 2

### 「ブランド」関連プロジェクト

#### まちのリブランディングにより 情報発信を強化



#### 「旬の食」を中心とした琴浦ブランドの確立と情報発信の強化

「琴浦町といえば・・・」のブランドメッセージを確立し、町民に誇りや愛着をもってもらい、琴浦ブランドの認知度の向上を目指します。

#### 現状と課題【ブランド力】

山陰道の開通を機に、食のブランド化に取り組んだが、その後新たな観光資源の掘り起こしや展開が出来ていないことからブランドイメージの向上に繋がらなかった。  
拡大傾向にあるインバウンドに対する地域ブランディングも必要です。

#### 「ブランド」関連プロジェクトの取り組み

- 「琴浦町とは、こんなまち」を表すブランドメッセージをビジュアル化し、琴浦町の魅力を確立し、町内外に対しブランドイメージの向上に取り組めます。
- 琴浦の地域ブランドを効果的に情報発信するため、広域観光連携を推進し、国内外より観光客を幅広く呼び込みます。

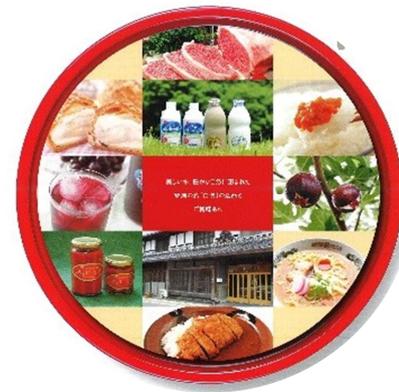
#### 「ブランド」関連プロジェクトの行動計画

展開施策	行動計画	短期	中期	長期
琴浦ブランドの創出	琴浦ブランドのロゴマーク等の発信ツールの充実 琴浦ブランドの定着に向けた住民への機運の醸成 観光パンフレット・プロモーション動画の制作 観光ホームページのリニューアル SNS等を活用した情報発信の強化 道の駅「琴の浦」観光案内所による情報発信 旬の琴浦グルメ等のブランドイメージ創出 イベントにおいて琴浦グルメ出店による情報発信			
広域観光・広域連携の推進	県内外観光関連施設等にパンフレット・チラシの配架 県内道の駅との相互連携により情報発信の強化 広域観光団体との連携による観光振興事業の展開 広域観光周遊ルート等の観光商品の造成 町観光大使を活用した情報発信			
インバウンド対策	観光案内所のインバウンド対応の強化 海外向け SNS 等を活用した情報発信 町内観光施設や各種広報媒体の多言語化対応 公衆wifiの環境整備			

### 基本施策 3

#### 「観光商品」関連プロジェクト

#### 農畜水産物や地域資源を活用した 観光商品を開発



#### 琴浦町ならではの「食・自然・歴史」を活かした魅力ある観光商品の充実へ

「琴浦町に行かなければ、出来ない・買えない・食べられない」をモットーに、体験観光・観光土産・グルメメニューなど琴浦ブランドの観光商品の開発を目指します。

#### 現状と課題【経済効果】

観光協会による旅行会社への売り込みにより、観光バスツアーによる観光客が増加したが、土産物店や飲食店への立ち寄りがなく経済効果に結びつかなかった。

旅行客に観光消費してもらい、琴浦グルメ、観光商品、土産物、サービスなどが不足している。

#### 「観光商品」関連プロジェクトの取り組み

- 琴浦町は豊かな自然に恵まれ、海の幸、山の幸の農林水産業が盛んであり、四季折々の恵みや幸を活かした観光振興を推進します。
- 琴浦らしい土産・物産品の開発・販売や、特色ある農畜産物・水産物等の食材を用いた食事の提供など、様々な分野での取り組みを進め観光による地域への経済面での波及効果を高めます。
- 地域資源を活かした着地型体験観光商品を開発し、観光客の滞在時間の拡大を図ります。

#### 「観光商品」関連プロジェクトの行動計画

展開施策	行動計画	短期	中期	長期
食(グルメ)を活かした観光振興	琴浦 旬の食材を使用したメニュー開発 乳製品、東伯牛、サーモンなど農畜水産物に関するブラッシュアップ あごカツ、牛骨ラーメンなど既存グルメのブラッシュアップ 旬の琴浦グルメ巡るツアーコースの造成 ふるさと納税を活用した琴浦グルメの情報発信			
自然・歴史を活かした観光振興	船上山の自然・歴史を活かしたトレッキング等で観光振興 大山滝トレイルなど一向平の自然で観光振興 一向平キャンプ場のリニューアルで施設の充実 鳴り石の浜など自然を活かした体験型観光商品の造成 斉尾廃寺跡など史跡・文化財を活用した観光振興 ミシュラン・グリーンガイド観光地の情報発信の強化			
体験型観光・土産物の観光商品	サイクリングルートを活用した観光振興 ウォーキングイベントを活かした観光振興 古民家を活用した農家民宿の情報発信 旬の食を活かした体験型観光商品の造成 赤碓漁港を活用した体験型観光商品の造成 光の鰻絵・神崎神社などの観光土産の開発			

## 1 目的

琴浦町における観光客の動態や特徴等を調査分析し、戦略的かつ効果的に観光客の受入環境整備や情報発信、周遊観光ルートの検討など今後の観光地域づくりの基礎資料とするとともに、調査分析結果を関係者等と共有することを目的とする。

## 2 調査概要

位置情報ビッグデータ等を利用して、琴浦町への来訪者の動態や特徴等について調査分析を行った。また、今回については、特に道の駅に重点をおき観光客の行動パターンを分析した。

調査期間 令和元年12月1日～令和2年2月末日のデータを分析

## 3 調査結果（詳細別紙）

### (1) 琴浦町への来訪状況

- ・多くの来訪者数を記録したスポットは、「道の駅琴の浦」、「道の駅ポート赤碕」、「香味徳」、「たかうな」等牛骨ラーメンをはじめとするグルメスポットへの来訪者数が多い傾向

### (2) 琴浦町での回遊状況

- ・複数拠点来訪時の回遊パターンは、2箇所しか来訪しない2回遊がほとんど
- ・そのうち、約3割は「道の駅琴の浦」と「道の駅ポート赤碕」間の回遊

### (3) 道の駅琴の浦来訪状況

- ・道の駅琴の浦内で多くの来訪者数を記録したのは、「情報コーナー(飲食コーナー)」
- ・来訪者の属性としては、鳥取市、米子市、松江市等町外の在住者が多い。

### (4) 道の駅ポート赤碕来訪状況

- ・道の駅ポート赤碕内で、多くの来訪者数を記録したのは「あぐりポート琴浦」
- ・来訪者の属性としては、琴浦町を含む東伯郡在住者が多い。

## 4 調査結果で判明した課題

### (1) 道の駅(特に琴の浦)の回遊拠点化

現状、道の駅間の回遊が行われているが、そこから他の観光スポットへの回遊をより頻度高く発生させることが課題。特に来訪者数が多く、琴浦町外居住者が多い「道の駅 琴の浦」を回遊拠点にできるかが観光振興の鍵だと考えられる。

### (2) グルメ以外の観光スポット強化

現状の回遊パターンを把握すると2回遊がほとんどという状況。また、来訪スポットとしては、牛骨ラーメンをはじめとするグルメスポットが中心。それらを踏まえると、食前・食後に来訪する 観たり、体感したりする観光スポットが想起されないため、3箇所以上を来訪する回遊行動が取られにくいと考えられる。

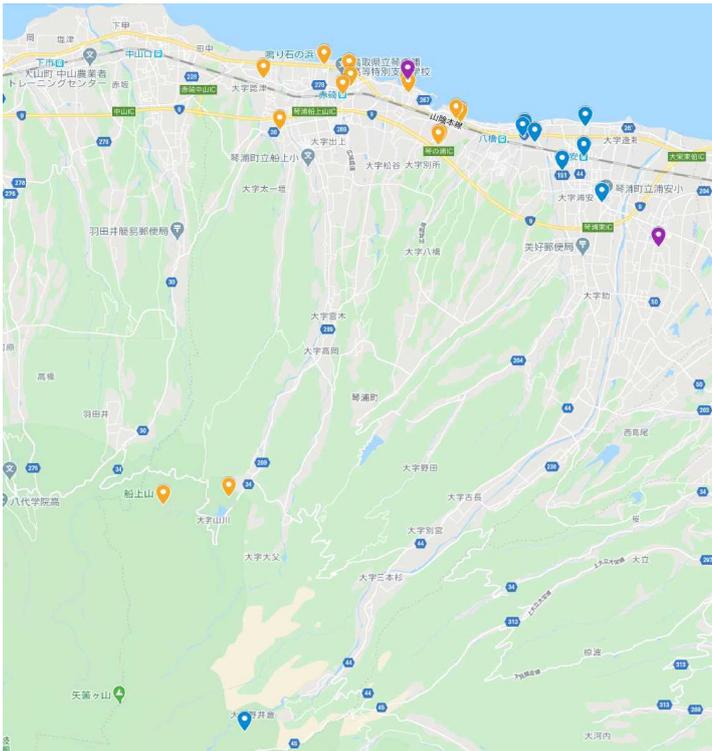
### (3) グルメスポット同士の相互送客

琴浦町の現状最大の観光資産は「グルメ」だが、現状1箇所のみで食べて満足されてしまっている可能性が高い。グルメスポット同士を繋ぐ“観光コンテンツ”を生成し、グルメスポット間を回遊する新たな観光行動を生み出す必要がある。

## 5 今後の予定

AI Beaconのデータ調査・分析を踏まえ、観光ビジョンのアクションプランを実施し、観光ルートの作成など、道の駅「琴の浦」から町内観光スポットへの回遊の向上を図る。

## 1-2. 設置箇所一覧 エリア全体



場所	設置箇所	住所	設置
1 一向平キャンプ場 (大滝)	食堂入口付近	鳥取県東伯郡琴浦町野井倉688-129	✓
2 大山乳業 (カワイーミルク館)	店舗裏	鳥取県東伯郡琴浦町保37-1	✓
3 山本おたふく堂	店舗入り口	鳥取県東伯郡琴浦町八橋348	✓
4 グレイン	店舗入り口	鳥取県東伯郡琴浦町八橋392-2	✓
5 たかうな	店舗入り口	鳥取県東伯郡琴浦町下伊勢527-6	✓
6 ザンシャインとうはく	受付カウンター	鳥取県東伯郡琴浦町徳万437-10	✓
7 J R 浦安駅		鳥取県東伯郡琴浦町徳万	未
8 鴨り石の浜 (喫茶店)	店舗裏口	鳥取県東伯郡琴浦町赤崎1929-11	✓
9 塩谷定好写真記念館	店舗入り口	鳥取県東伯郡琴浦町赤崎1568	✓
10 神崎神社	社内入口付近	鳥取県東伯郡琴浦町赤崎210	✓
11 光の鏡絵 (公民館)	公民館入口付近	鳥取県東伯郡琴浦町光集落	✓
12 香味楼	店舗入り口	鳥取県東伯郡琴浦町赤崎1979	✓
13 河本家住宅	入り口付近	鳥取県東伯郡琴浦町笠津393	✓
14 船上山万本桜公園	管理室 (建物中央付近)	鳥取県東伯郡琴浦町山川807-2	✓
15 道の駅「琴の浦」(うまいもんや)	建物中央付近	鳥取県東伯郡琴浦町別所1030-1	✓
16 道の駅「琴の浦」(JA)	建物東端付近	鳥取県東伯郡琴浦町別所1030-1	✓
17 道の駅「琴の浦」(漁協)	建物西端付近	鳥取県東伯郡琴浦町別所1030-1	✓
18 道の駅「琴の浦」(潮自慢あかさき亭)	建物中央付近	鳥取県東伯郡琴浦町別所1030-1	✓
19 道の駅「琴の浦」(観光協会窓口)	建物南 別棟	鳥取県東伯郡琴浦町別所1030-1	✓
20 道の駅「ポート赤崎」(漁協直売所)	建物中央付近	鳥取県東伯郡琴浦町別所255	✓
21 道の駅「ポート赤崎」(JA直売所)	建物東端付近	鳥取県東伯郡琴浦町別所255	✓
22 道の駅「ポート赤崎」(日輪資料館)	建物東 別棟	鳥取県東伯郡琴浦町別所255	✓
23 道の駅「ポート赤崎」(風の丘)	建物南 別棟	鳥取県東伯郡琴浦町別所255	✓
24 道の駅「ポート赤崎」(空き店舗)	建物西端付近	鳥取県東伯郡琴浦町別所255	✓
25 河上旅館	入り口付近	鳥取県東伯郡琴浦町赤崎1104-5	✓
26 J R 赤碓駅		鳥取県東伯郡琴浦町赤碓	未
27 セブンイレブン 琴浦遠東店	入り口付近	鳥取県東伯郡琴浦町遠東1 0 6 8 - 1	✓
28 八橋駅	駅務室内	鳥取県東伯郡琴浦町八橋下跡見988	✓
29 JAセルフ赤碓SS	入り口付近	鳥取県東伯郡琴浦町赤碓1918-24	✓
30 JAセルフ遠東SS	入り口付近	鳥取県東伯郡琴浦町遠東813-1	✓

※JR浦安駅、JR赤碓駅に関しては2020/02/28に追加で設置したため、本レポート集計期間におけるデータ取得はなし。  
 ※塩谷定好写真記念館については機材トラブルのため、12月に16日間、1月に29日間、2月に27日間のデータ取得不能期間があった。

## 1-5. 集計データ一覧

- 来訪者数  
計測期間中にビーコン設置箇所を訪れた人の数 (設置箇所に3分以上滞在した人)
- リピーター数  
計測期間中にビーコン設置箇所を2回以上訪れた人の数 (設置箇所に3分以上滞在が2回以上ある人)
- 滞在時間  
来訪者が1回の来訪でビーコン設置箇所に滞在していた時間 (設置箇所に3分以上滞在した人)
- 再来訪回数  
計測期間中にビーコン設置箇所を2回以上訪れたリピーターが再来訪した回数  
Ex. 2回来訪したリピーターの再来訪回数: 1回 3回来訪したリピーターの再来訪回数: 2回
- 回遊パターン  
計測期間中にビーコン設置箇所を訪れた人が、計測された後でどこを訪れているのかその回遊パターンを分類したもの  
(設置箇所に3分以上滞在した人の遷移先での3分滞在箇所を回遊パターンとして分類)
- 来訪者属性  
計測期間中にビーコン設置箇所を訪れた人の性別・年代を保有する他データとの結合により推測したもの
- 来訪者の推定居住地・勤務地域  
計測期間中にビーコン設置箇所を訪れた人の居住地・勤務地域を保有する他データとの結合により推測したもの

## 2-1. 調査結果から検出されたポイント

### <琴浦町エリア来訪実態>

- 計測期間中のビーコン設置箇所全体の累計来訪者数は、**292,865**。
- 計測期間中に最も多い来訪者数を計測したのは、**2月23日(日)** (2月22～24日が三連休)。
- 多くの来訪者数が記録されたのは、**12時-13時**のお昼の時間帯。
- 琴浦町への来訪実態として、**宿泊を伴わない「日帰り」が95%**を占める
- 多くの来訪者数を記録したのは、「道の駅琴の浦」「セブンイレブン琴浦逢東店」「道の駅ポート赤碕」。
- それ以外のスポットとしては「香味徳」「たかうな」など**牛骨ラーメン**をはじめとする**グルメスポット**の来訪者数が多い傾向がある。
- 一方で、「鳴り石の浜」「神崎神社」「光の鰻絵」など**観る・体感するスポット**の来訪者数が少ない。
- 来訪者の滞在時間としては、「河本家住宅」や「光の鰻絵」などの**文化観光スポット**が長い。

### <琴浦町回遊実態>

- 複数拠点来訪時の回遊パターンは、2箇所しか来訪しない**2回遊がほとんど**。
- そのうち、約3割は「道の駅琴の浦」と「道の駅ポート赤碕」間の回遊。
- 道の駅間の相互回遊の中では、来訪者数に対して**「琴の浦」からの送客が非常に少ない**点が課題。
- また2つの道の駅から他の観光スポットへの回遊も起こっているため、**回遊起点のポテンシャルは高い**。

### <道の駅琴の浦来訪実態>

- 計測期間中の道の駅琴の浦全体の累計来訪者数は、**136,124**。
- 計測期間中に最も多い来訪者数を計測したのは、**2月23日(日)** (2月22～24日が三連休)。
- 計測期間中の平均滞在時間は**18分9秒**。
- 道の駅琴の浦内で多くの来訪者数を記録したのは「**潮自慢あかさき亭**」。
- 来訪者の属性としては、**鳥取市・米子市・松江市**など琴浦町外在住者が多い。

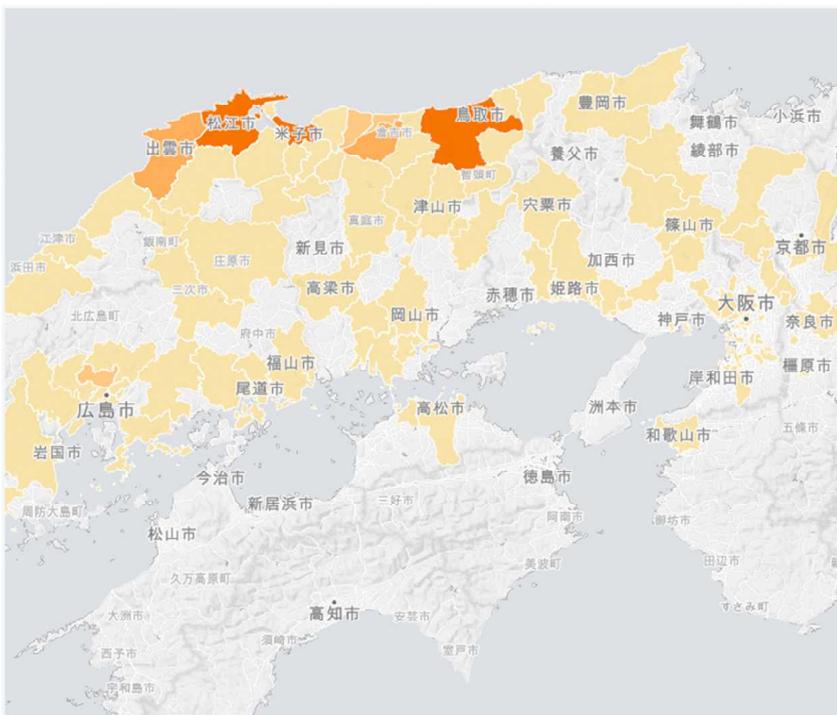
### <道の駅ポート赤碕来訪実態>

- 計測期間中の道の駅琴の浦全体の累計来訪者数は、**37,400**。
- 計測期間中に最も多い来訪者数を計測したのは、**2月24日(月)** (2月22～24日が三連休)。
- 計測期間中の平均滞在時間は**16分52秒**。
- 道の駅琴の浦内で多くの来訪者数を記録したのは「**JA直売所**」。
- 来訪者の属性としては、**琴浦町含む東伯郡**在住者が多い。

© 2020 HAKUHODO Inc. All Rights Reserved. Confidential. 10

## 5-8. 道の駅「琴の浦」 居住地分析

### ■ 鳥取市、米子市、島根県松江市など近隣市 居住者による来訪が多い。



※市区町村での色分け

都道府県		シェア
鳥取県		46.1%
島根県		15.8%
広島県		9.2%

都道府県	市区郡	シェア
鳥取県	鳥取市	14.4%
鳥取県	米子市	9.0%
鳥取県	東伯郡	8.6%
島根県	松江市	8.3%
広島県	広島市	5.8%
鳥取県	倉吉市	5.6%
島根県	出雲市	4.8%
鳥取県	西伯郡	3.4%

都道府県	市区郡	区町村	シェア
鳥取県	鳥取市		14.4%
鳥取県	米子市		9.0%
島根県	松江市		8.3%
鳥取県	倉吉市		5.6%
島根県	出雲市		4.8%
鳥取県	東伯郡	琴浦町	3.1%
鳥取県	東伯郡	北栄町	2.9%
広島県	広島市	安佐南区	2.0%
鳥取県	境港市		1.9%
岡山県	岡山市	北区	1.7%
鳥取県	西伯郡	大山町	1.7%
鳥取県	東伯郡	湯梨浜町	1.7%
鳥取県	八頭郡	八頭町	1.5%
広島県	広島市	西区	1.4%

© 2020 HAKUHODO Inc. All Rights Reserved. Confidential. 34

# 「道の駅」活性化計画策定業務の報告について

商工観光課

## 1 委託目的

琴の浦ICの開通を踏まえ、道の駅の現状診断、再活性化計画に資する調査・分析を行い、マーケティングとマネジメントを統合した再生計画を作成する。

## 2 委託先

株式会社 日本総合研究所（東京都品川区）

## 3 策定報告の概要

### （1）現状の評価

地域資源の評価について

- ・道の駅の機能として、基礎的な要素である衛生要因の改善が必要。
- ・農産物等の地域資源は魅力的だが、その資源を活用する主体が不在である。

ポート赤碕の提供価値について

- ・各テナントが「独立運営」しており、現時点で積極的に連携されていない。
- ・積極的な情報発信は為されていない状況。

道の駅 琴の浦の提供価値について

- ・一般的なパーキングエリアの休憩施設のような接客対応を展開しており、統一感のある価値提供ができているとは言い難い。

回遊性の視点から見た道の駅の評価

- ・琴浦町のゲートウェイであるべき琴の浦の観光案内所も積極的な情報発信を行っていないため、回遊する起点にはなりづらい現状にある。

マネジメントの視点から見た道の駅の評価

- ・課題は「施設マネジメントにおいてリーダーシップをとる主体が不在」という点に尽きる。

### （2）課題解決の方向性

道の駅としての魅力度向上について

- ・多くの人を呼び込むには、衛生要因の改善（整備がされていないと価値が下がるものを改善させる）と、魅力的なコンテンツ開発・充実が必要である。

地域へのゲートウェイ機能の強化

- ・現在受動的である道の駅を「ゲートウェイ」として機能させるためには、戦略的なプロモーション等の実施により「通常では立ち寄る予定のない人を誘引する」仕掛けが必要。

マネジメント強化の必要性

- ・現状は、道の駅の関係者全てが1つの道の駅としての統一的なマネジメントについて、主体的な動きをしていない。そのため、主体的に道の駅全体のマネジメントを行う存在が必要。

## 4 報告会の開催

（1）期日 3月24日（火）14:00～16:00

（2）委員構成

観光協会、（株）ことうら（宝製菓、山本おたふく堂、あぶい蒲鉾、東伯ガス産業、東伯シティ、大山乳業）JA鳥取中央、赤碕町漁協、山口副町長、深谷参与

(3)「道の駅」活性化計画策定に関する報告(日本総合研究所より報告)

(4)主な意見

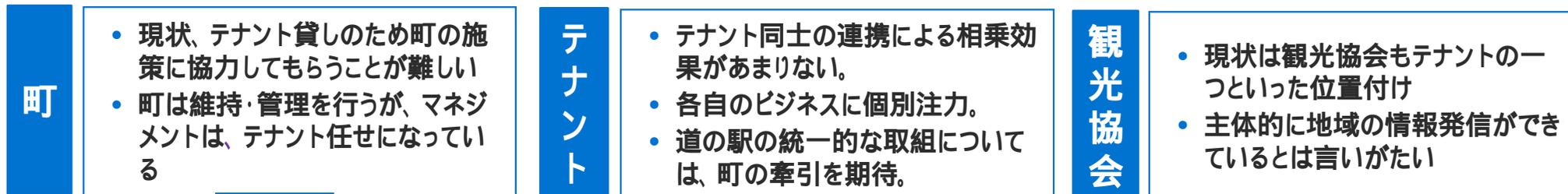
- ・道の駅「琴の浦」はテナントのルールの一貫性がなくバラバラである。今回、現状を把握し、改善が必要であることはわかった。
- ・今年度は人の動きが数字で見える化できているので、仕切れる人がいれば、もの凄い強い駅になる。リーダーシップをとるのは地元の人が良いと思う。
- ・とびうおロードの開通とともに、今まさに2つの駅の活性化に力を入れ、町内への周遊・滞在型を目指していきたい。
- ・駅長方式なのか指定管理へ移行するのか十分協議を進めて、とりかかる必要がある。

## 5 今後の予定

道の駅関係者と意見交換会を開催し、提案に対する意向を確認しながら、方針を決定していく。

## 2つの道の駅の評価結果と今後検討すべき方向性

- ◆ 現状では、1つの道の駅としての**統一的なマネジメント**がなされていないため、地域の魅力を伝え、回遊性を促すことができていない。そのため、主体的に道の駅全体のマネジメントをおこなう存在が必要。



- 道の駅を単なるテナントの集まりではなく、**地域を活性化させるミッション（使命）**を担った1つの公益性の高い施設として再定義することが必要
- このミッション（使命）とは、道の駅の魅力度を高めることで、地域への誘客を促進し、地域製品の販売や地域観光への回遊など、地域のゲートウェイとして機能することである
- このミッションを達成するためには、道の駅全体の管理・運営について全体に横串を通す存在が必要

**主体的に道の駅全体のマネジメントをおこなう存在が必要**

**道の駅「琴の浦」の物販・飲食エリアは町資産なので統合マネジメントの実施可能**

【道の駅「琴の浦」の経営形態パターン】

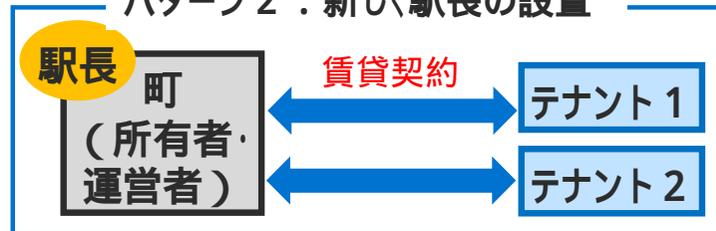
道の駅「琴の浦」の経営形態の検討

パターン1：テナント貸し



現状と同じテナント契約を継続

パターン2：新しく駅長の設置



現行のテナント式にマネジメント・PR役の駅長を設置

パターン3：指定管理方式の採用



全体マネジメントを行う指定管理者を募集